

暗唱のすすめ 百人一首編⑰

八十一 ほととぎす 鳴きつる方を な かた ながむれば
ありあけ つぎ のこ

ただ有明の 月ぞ残れる

ごとくだいじのさだいじん
後徳大寺左大臣

八十二 おもイ いのち
思ひわび さても命は あるものを
う エ なみだ

憂きにたへぬは 涙なりけり

どういんほうし
道因法師

八十三 よ なか みち おもイい
世の中よ 道こそなけれ 思ひ入る
やま おく しか な

山の奥にも 鹿ぞ鳴くなる

こうたいぐうぐのだいぶとしなり
皇太后宮大夫俊成

八十四 なが エ
長らへば またこのごろや しのばれむ
う み よ いま こい

憂しと見し世ぞ 今は恋しき

ふじわらのきよすけあそん
藤原清輔朝臣

八十五 よ ものおもウ あ
夜もすがら 物思ふころは 明けやらで
ねや エ

閨のひまさへ つれなかりけり

しゅんえほうし
俊恵法師